

## 「お墓からみる家族社会学」

「〇〇家之墓」と墓標にあるように、現代社会に家意識が色濃く残るお墓。男系で継がれてきたお墓は、核家族化やおひとりさまの増加、長男・長女同士の結婚が増えるなかで、様々な問題を投げかけている。法律と慣習を把握し、問題の所在を紐解き、具体的な新しい動きを紹介する。

「誰と入るか、誰が守るか」を考えてみよう。

講師：元東洋大学ライフデザイン学部教授 井上治代先生

### 井上治代先生のプロフィール

所属：元 ライフデザイン 学部 健康スポーツ 学科 身分 教授  
现代社会総合研究所 客員研究員  
認定 NPO 法人エンディングセンター 理事長  
エンディングデザイン研究所 代表

専門分野及び研究テーマ：家族変動と葬送文化の変容、無縁・多死社会における死と葬送の社会化

所属学会：日本社会学会、日本家族社会学会、日本宗教学会、「宗教と社会」学会

主要著書・論文 (1)『墓と家族の変容』岩波書店  
(2)『子の世話にならずに死にたい』講談社新書  
(3)『墓をめぐる家族論』平凡社新書  
(4)『おひとりさま時代の死に方』講談社+α新書 2025年8月刊

略歴：社会学博士。東洋大学ライフデザイン学部教授を経て、現在、同大学・现代社会総合研究所客員研究員や認定 NPO 法人エンディングセンター理事長として、研究・執筆・講演・評論活動を行っている。主な葬送関係の自著に『現代お墓事情—揺れる家族の中で』『いま葬儀・お墓が変わる』『最期まで自分らしく』『墓をめぐる家族論』『墓と家族の変容』『子の世話にならずに死にたい』『より良く死ぬ日のために』『おひとりさま時代の死に方』他多数がある。

「桜葬」関連では、『桜葬一桜の下で眠りたい』、「集合墓を核にした結縁—「桜葬」の試み」『地域社会をつくる宗教』叢書 宗教とソーシャル・キャピタル 第2巻、“Death Dying, and Disposal in Contemporary Japan,” It will be published by Routledge (UK), 「死生観なき時代の死の受容—スピリチュアルケアとしての先祖祭祀から自然・墓友へー」「終活」を考える—自分らしい生と死の探求』など多数ある。